



MJCC マニラ日本語キリスト教会

私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。

なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

(バイブルタイムの暗唱聖句 ローマ人への手紙 1章 16, 17節)

C-BTEリソース教会を目指して

2014年6月に、仙台バプテスト神学校から初めて森谷先生をお招きし、基本原則シリーズの学びが始まりました。

3年後の2017年6月に2度目ワークショップを行うことができました。その後、主日礼拝の説教に代えて、問答形式で聖書の学びの時間「バイブルタイム」が生まれ、全員参加を目指しています。

C-BTEに取り組んで5年目を迎えたMJCCは、8月にC-BTEネットワーク教会として正式に登録し、指導者育成、教会の建て上げを推進して行くリソース教会となることを目標としています。

2020年3月には、森谷先生を再びお迎えて3度目のワークショップ（リーダーシップクラス）を計画しています。

また、9月から基本原則シリーズを学び終えたリーダー達によって、新しい学びのグループが始まりました。MJCCの一人一人が聖霊に導かれ、教会の成長のために小さなステップを忠実に前進できることが心からの祈りです。

<<参照URL>> <http://c-bte.jp>
<https://c-bte658.blogspot.com/>

バイブルタイム／ローマ人への手紙の学び

礼拝におけるバイブルタイムを通して主の知恵と励ましが与えられています。すでに、パウロの獄中書簡の4書、使徒の働きを終え、現在ローマ人への手紙も後半に向かっていきます。この学びによって、もちろん信仰による義についての理解も深められています。それと同時に、背景をよく理解することによって、より深い学びと文脈を知らなかったが故に今まで間違っていた御言葉の取り方も示されてきています。準備は大変ですが、リーダーになる兄弟も導き方が上手になっている事も確かです。また、お互いに意見を交換する事で今まで考えたことがなかった視点も与えられています。難しいローマ書ですが、大きなチャレンジに感謝しています。

子羊会

毎週主日礼拝前に、学びが続けられています。8月に「キリストに生きる」の学びを終え、「イエスとの出会い」というテキストの学びが始まりました。仕事や家事で忙しい中、事前にテキストの質問を予習して参加しています。特に、福音書からイエス様と出合った人たちが、どのようにイエス様を信じていくかその姿を学ぶことによって信仰の基本は、イエス様との出会いであり、関係であることを一人一人が自覚できれば幸いです。



マナの会／読書会

マナの会は、「わかりやすい聖書の学び会」ということで25年続けてきました。その中で聖書に初めて触れた方もあり、救いに導かれた方、信仰の確信を持った方もありました。指導者の有無にかかわらず、

この会が継続できるように聖書に基づく良書を用いて読書会という形を取るようになりました。最初は「ビリー グラハム 天のふるさとに近づきつつ 人生・信仰・終活」という本を選び、9月から始めています。

マナの会の出席者の半数は60歳以上です。老いを感じ始め、残る人生をどのように有意義に過ごせるかを模索している人も多いと思います。この書は高齢者だけのためではなく、どの年代の人たちが読んでも良い備えとなり、大きな励ましを受けることができます。「老いというものを神の視点から見つめ、私たちが日々支えられている神の力を見出す」（“序”5ページ）ためにこの読書会を通して主から多くを学べる幸いを覚えています。

ヴァインの会



男性のための祈り会です。姉妹達には「ルデヤ会」として祈り会があるのですが、男性陣の祈り会を開きたいという思いから、以前、男性の交わり会であった「ヴァインの会」が祈り会として復活しました。。毎月一回礼拝前に集まり各々の家庭や職場で直面している課題や問題に対して分かち合い、祈りの課題を共有してお互いのために祈り合います。

主の前に各々が、お互いに自分の心を開いて主に信頼して祈り、隣人を愛し、とりなしの祈りを行えるように、また求道者の方々も神様は祈りに答えてくださるお方であることを理解することで主の愛を確信してもらうことも目標としています。





教会学校遠足

“孤児院の子どもたちとのふれあいを 通して神様の愛を体験しよう”

2019年11月9日土曜日、大人子供合計22名でブラカン州プストスという町へ行ってきました。

北高速を降りて30分以上走ると、見渡す限り田んぼの中に、孤児院「Bahay at Yaman ni San Martin de Porres」(“サンマルティン・デポレスの家と宝”という意味)が見えてきます。ここには約150人の7歳から23歳までの家庭に事情を抱えた子どもと青年たちが住んでいます。

両親が別れてしまい、お母さんは経済的に大変で、学校に行くこともできなくなり、孤児院に連れてこられたという女の子のお話を聞きました。さみしいことがあっても、ここでちゃんと勉強をして卒業すれば、良い未来が開けると信じて頑張っています。この施設に導かれて、お祈りすることも覚え、神様のことを知ることができて、よかったという子もいました。

MJCCから参加した子ども達の中には、恵まれた生活をしている自分たちとは大きく違う環境の子どもたちの話に、「自分の生き方を考えた」という子もいたようです。昼ごはんをいただいた後は、孤児院の子どもたちと一緒に、バスケットボールをしたり、ハンカチ落としをしたり、土をこねて器を作ったりしました。お別れの前に、みんなで「きよしこの夜」を歌いました。孤児院の子ども達もローマ字の歌詞を見ながら一緒に歌ってくれました。この子ども達にも、遠足に参加した日本の子ども達にも、素敵なクリスマスの夜が来るように、またクリスマスに救い主の来られた恵みを知って、心に平安を得られるように、祈りつつ、プストスの町を後にしました。

池村姉送別会



昨年2018年にMJCCで洗礼を受けた池村雅代姉は、こちらでの大学院の学びを終えて7月にご実家の沖縄へと帰国されました。短い期間でしたが、主にある交わりが与えられたことを感謝します。遠くから礼拝に片道3時間近くかけてきてくださった事を思いながら、日本でも主にある歩みが導かれるように祈っています。



父の日礼拝

6月第3週は父の日です。日頃の感謝を込めてMJCCのお父さんたちに子どもたちから賛美、そして女性たちからは栄養ドリンクのプレゼントがありました。

毎日仕事に忙しく働くお父さんたちですが、神様にいつも栄養(聖書の言葉)をいただいて歩いていく事ができますように。



お知らせ

- MJCCはユニオンチャーチの中で“住所変更?”をいたしました。今まで使っていた部分の修復工事が行われることになり、一時的に地下に“仮住まい”をしています。その引っ越しの日、有志の兄弟たちが荷物を5階から地下に足で運ぶという大変な労を喜んでしてくださいました。
- ジューン先生、デビッド先生ご夫妻は、手術後お二人とも順調に回復しておられるようです。感謝とともに先生方の生活が守られ主にある平安があるように一緒にお祈りに覚えてください。
- モンテルパ刑務所の訪問は未だにできない状態が続いています。むしろ、もっと厳しい状態にあるように感じています。長期受刑者の仮釈放制度(GCTA)によって対象になっていた日本人の兄弟もその制度の混乱によって見通しが立たない状況下にあります。

